

200

小林三氏曰く英國は人か犬か

日本書房版

日英はもう戦つてゐる

田

特253

38

英著

10



0010416000

0010416-000

特253-38

日英はもう戦つて居る

田辺宗英・著

日本書房

昭和12

ABJ

200

小林三氏曰く英國は人か犬か

日本書房版

日英はとう戦つてゐる

田

特253

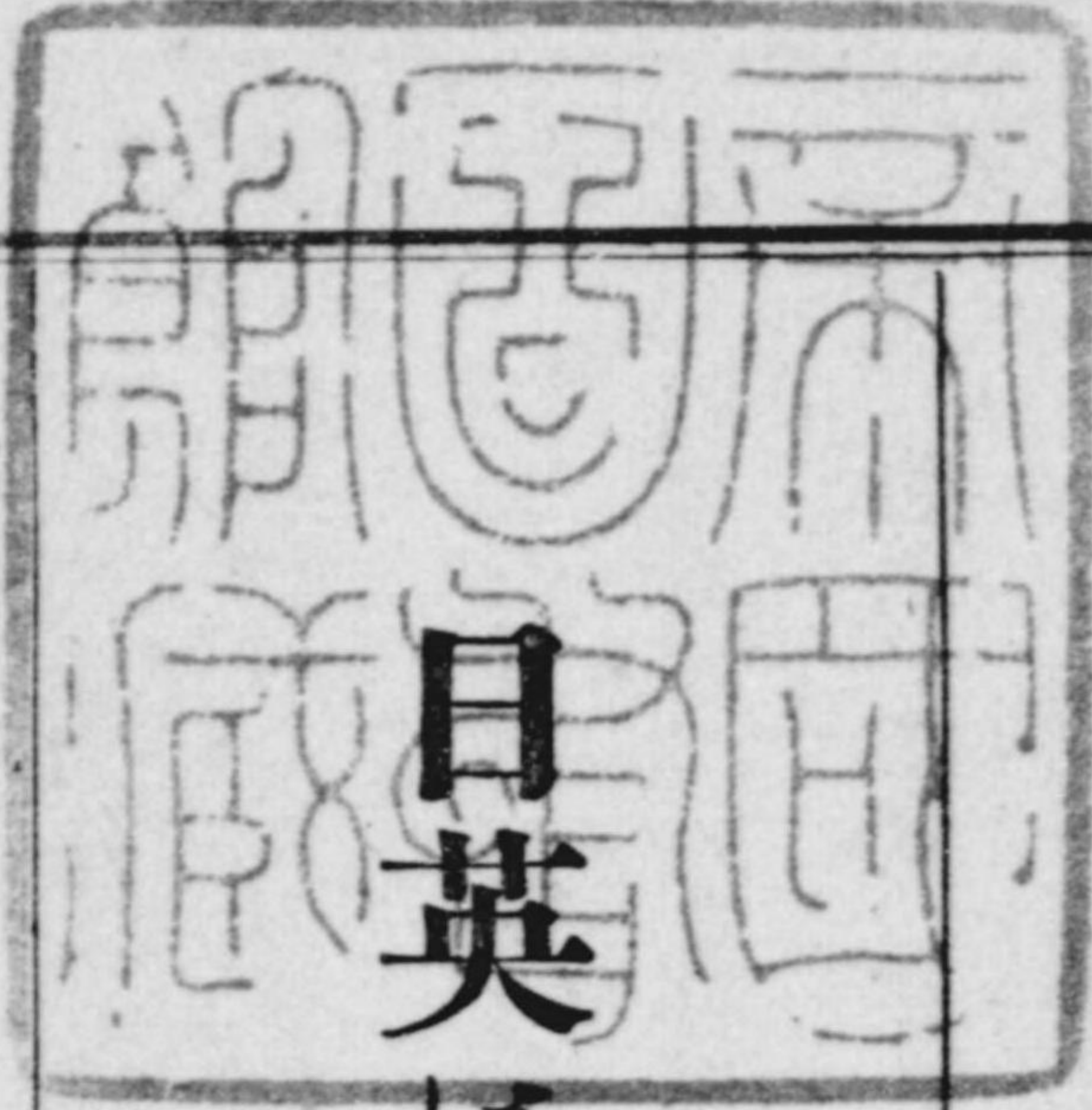
38

英著

10

37
4

時253
38



田邊宗英著

日英はもう戦つて居る

東京日本書房版



著者は五十七歳の青年である。波瀾を極めた五十有餘年の生涯はこれすべて感激の連鎖である。發行者の拙筆を以て紹介するまでもなく、著者は甲州出身實業家の一翼として特異の存在を續けてゐる。限りなき繁忙の寸暇をも彼を休養せしめぬものは彼が抱く祖國愛の熱血である。我が國愛國運動の隠れたる指導者としての著者は、その傑れたる直感と冷徹なる研究等一切を暴英膺懲の聖戰に捧げ、いま現に倒英運動の指導者として勇躍してゐる。

乞ふ、諸賢、吾人と共に彼の熱血を享けんことを。

昭和十二年十二月

發行者識

目次

一 英國を亡ぼせ……………	四	七 倒英と昭和維新の關係……………	七
二 如何なる反英言辭も 過激でない……………	六	八 偽善・狡獪！英國民 性の本質……………	六
三 宿命の日英戰爭……………	八	九 英語教育を検討せよ……………	三〇
四 支那事變は天佑……………	一〇	十 英帝國の罪惡史……………	二四
五 今、日英は戦つてゐる……………	二	十一 英勢力の驅逐……………	三七
六 打倒英國は日本民族 の聖使命……………	二四	十二 奮起せよ 日英 開戦の絶好機……………	六

日英はもう戦つて居る

田邊宗英著

一 英國を亡ぼせ

世人の多くは漠然として、東洋の平和と、東亞の安定とを説いて居るが、其の具體的手段方法に就て、モット明瞭に認識する必要は無いか。

支那の軍閥共匪の私立政權をあの儘にして置いて。極東に對するソ聯の野望から來る支那の赤化と、ウラヂオの軍備をあのまゝに放置して置いて。又、英國の東亞に對する野望の手段である支那の權益、香港・シンガポールの軍備をあのまゝにして置いて、それで、東洋の平和と日本の安泰とが、果して確實に保持せらるゝであらうか。

自國の運命に關することだ、ハッキリと認識して貰い度いのである。對外國策に付ては、國民はハッキリした上にも、ハッキリとした認識を持たねばならない。それだけでなくとも外交問題は、其の性質上、又、國際情勢の關係から 兎角曖昧模糊の間に葬り去られて、それが爲に國民の知らざる間に、國運の發展を阻害すること甚大なる場合がある。

從來の軟柔外交が、國威の發揚を傷け、之を阻害したることの多きは、今更言ふ迄も無い、之等は外交當局者の無能軟柔から來りたることは言ふ迄もないが、國民も對支國策に對して、無關心冷淡であつて、當局を指導鞭撻することを怠りたることも、亦重大なる源因と言はねばならない。

大陸問題にしても、南支南洋の問題にしても、カムチャツカ、沿海州方面の問題にしても、少數の志士、一部の憂國者から遠く維新以來常に叫ばれて居つた問題である。近くは、今回の如き事態の生ずることは、屈辱的ロンドン條約以來、憂國の軍人、愛國の志士に依つて繰り返し／＼叫ばれて來た問題である。然るに、國民の大部分は比

較的無關心であり、時の爲政者を鞭撻することを忘れ、其の爲すことに漫然と盲従して居つたのである。

一面から言ふならば、斯の如く盲従する迄に、爲政者を信頼する國民の期待を裏切つて、軟弱外交を續け來つた、從來の爲政者は、實に重大なる罪責を犯したものだと言はねばならない。

故に今回の如き、國家非常の時局に當つては、國民は宜しく從來の退嬰的態度を擲つて、ハツキリと時局を認識し、大膽に卒直に其の所信を披瀝し、以て國內は元より世界に向つて、國民の意見と態度とを明示して、國運の推進力とならなければならぬ。

6

二 如何なる反英言辭も過激でない

この意味に於て吾等同人は、逸早く暴英の許すべからざるを指摘し、英國に對する國民の認識を改めしめんことに努力し、進んで、之が對策として、

「英國の東洋艦隊を撃滅、ソ聯のウラヂオを粉碎し、支那の軍閥共匪を殲滅せざる限り、東洋の平和と帝國の安泰とは不可能である。」ことを提唱した。

吾々のこの提唱に對して、餘りにも露骨に過ぐると言ふものがあつた。それならば、

「英國皇帝は、皇室間の交誼を無視して、其の議會の詔勅の中に於て、日本が支那に對し、侵略國であるが如きことを明言して居るのは露骨で無いと言ふのか。」

英國風教の最高地位に在る、カンターベリー大僧正は——この僧正の司會の下に英國皇帝は帝位に即かれるのである——一新聞社の排日・抗日の宣傳大會の司會を爲して居る。其他、労働黨・産業組合・労働組合の多くが、排日經濟ボイコットを公然と決議して居る。英國のあらゆる新聞は公然と排日を宣傳し、露骨に日本を侵略國と呼ばはつて居るではないか。

皇帝の議會に於ける言論の如きは、宣戰布告と同様の意義を有する。經濟ボイコットは、廣義國防から見て立派な宣戰布告である。斯の如く、上は皇帝から下は一般國

7

民に至る迄、英國は明らかに日本に挑戦をして居るのである。

それでも、尙、日本國民は、口を嵌し、手を拱いて、穩健自重の態度を取らねばならないのであらうか。幾十年に亘り、培かれたる、英國崇拜の弊害も、茲に至つて遂に極はまれりと言ふべきである。これでは、穩健にあらずして屈從であり、自重にあらずして降伏であると言はねばならない。

三 宿命の日英戦争

吾人は信ずる、英國と日本とは、このまゝで行くならば、どうしても、正面衝突は免れ得ない破目に陥つて居るものと信ずる。

この衝突をまぬがれる、唯一の方法は、

『日本が、日清・日露戦役以來の犠牲を放棄し東洋盟主の理想を抛ち、日本の亡びることを顧みずして英國に屈伏するか。』
然らざれば、

『英國が、支那の軍閥共匪を支持することを斷念し、人類の敵、ロシアと提携することとに絶縁し、東亞の侵略を思ひ止まつて、をとなく東洋より手を引くか。』

この二ツに一ツ以外に方法は無い。

英國が現在の如く、ロシアと共謀し、支那の軍閥を支援して、あきらかに、支那の作戦に加擔して日本の將兵を殺し、飽く迄、日本の發展を阻止して、東洋に權益を確保せんとする以上。日本は國家の安危の爲に、いかなる犠牲を拂つても、英國を膺懲せねばならないのである。

一體、今の英國の態度は、金持の泥棒に類して居る。乏しき者の盗みには、云ふに多少の同情はある。然し英國は、世界の到る所に豊富なる殖民地を持ち、世界の富を獨占しながら、それに飽き足らず東亞に毒牙を伸ばし、支那の血を吸ひ、日本の肉を啖はんとして居るのである。

勤勉にして勇敢、正直にして平和を愛する十億の大和民族は、狹隘なる土地にとちこめられて人間らしき衣食生活が出来ないのである。この正義と勤勉の民族が、正し

い生活の途を求めて發展し、自國を救ひ、更に人類を光被せんとするのに、有り餘る金持や高利貸が窮民を苦しむるが如くに、あべこべに、こちらの物を盗み取らうとするのが、今の英國の態度であると言はねばならない。

日本が英國を膺懲して好いか悪いかなど、言つて居るのは、警察官が泥棒を縛つて良いか悪いかを論ずるやうなもので、それは問題では無いのである。

若し、どうしても日英の衝突は免れない、むしろ進んで、日本が英國膺懲すべきものであるとしたならば、それは一日も早い方が良い。一日遅るれば、夫れだけ先方が用意を整へて、それだけ日本の拂ふ犠牲が多いことになる虞れがある。

四 支那事變は天佑

この點から考へて、今回の日支事變は。痛ましい事ではあつたが、むしろ國家百年の爲に、天祐であつたと言ふべきである。

今回の支那上海戦線の設備は、近代科學に依る驚くべき設備であつた、鬼神の如き

日本軍人であればこそ、僅々二ヶ月餘にして撃破することが出来たのである。

支那も英國も、少なくとも半年や一年は支へ得る、其の間には列國を然るべくあやつつて日本に大打撃を與へやうとしたのが、彼等の魂膽に他ならない。若しこれが三年、五年の先きであつたなら、日本は今回の事變よりも幾十倍の犠牲を拂つて、それでも尙危険の状態に置かれたかも知れない。かるが故に、若し、今回の事變の解決を南京を落したからそれで良い、英國もロシアも、從來の態度を改めて、日本の御機嫌を取つて來たから、夫れで良いなど、このまゝ不徹底の解決をしたならば、三・五年先きには、支那全土に亘る軍事設備、徴兵令の斷行、英國・ロシアの用意と進出とに依つて、日本はどんな危険に曝らされるか。

五 今、日英は戦つてゐる

かるが故に、今回の日支事變を、支那と戦つて居ると考へる者があるならば、それは隨分と御人好しの考へと言はねばならない。支那と戦つて居るのでは無い、英國と

戦つて居るのである。支那を英國がサイコロにして、日本に勝負をいどんで居るのである。

故に一番大馬鹿者が支那であり、一番タチの悪い元凶が英國で、善人で迷惑を蒙つて居るのが日本といふことになる。

神功皇后の三韓政伐は、クマソが背服常なく、其の背後に三韓が糸を引いて居るから、其の禍根を撃滅したのである。三韓が降伏すれば、クマソは自然に屈伏するのだ。

故に、眞に日支の親善・東洋の平和を望むならば、ロシアと英國との武力を東洋から一掃するより他に方法はない。

日本と英國とは、今、斯る状態になつて居る。即ち支那を通じて交戦状態になつて居るのにも係はらず、まだ日英の親善を唱へたり、甚しきは英國を崇拜して、之を恐れ居る人達が、相當の處に相當に多いといふことは、誠に情けない事で、吾々は、之等の人達の頭腦を疑はざるを得ないのである。

世の中に、先きの見えない現状維持派ほど、身を誤り國を誤る者は無い。國家は無限に生々發展すべきものであり、國際情勢は刻々に變化しつゝあるのに、其の中で舊態依然として、いつ迄も現状を維持して行こうといふことがそもゝの誤りで、安定を固定と心得た間違つた考へと言はねばならない。玉乗りが玉の轉々として動く上に安定を保持して居るやうに、進歩と變化の上に、永遠の安住を求むることが、個人として處世の要諦であり、國家として政治の要諦でなくてはならない。

日清役の時にも、支那の形體の偉大に恐れを抱いたり、國交の美名に親しみを感じた現状維持派があり、日露戦争の際にも、厄介極まるルーソビアン即ち恐露病者が居つて、危うく國運の發展を阻害せんとした。若し、支那を恐れ、ロシアを恐れたる、これ等現状維持派の意見に随つて居つたならば、日本は今頃果してどうなつて居つたか。過去の歴史の上では、治亂興亡の跡が歴々として明らかに分るけれども、當面の狀勢の中に在つては、中々困難のことのやうに見へる。然し、それは決して困難の事ではない。苟安を貪り、私慾に迷ひ、現状に囚はれ、それが爲に、達觀明徹の眼

が蔽はれて居るからである。今日の如き、世界情勢と日本の重大國難とが、遠からず日本を襲ひ來ることは、五・一五事件以前から、二十歳前後の若き軍人、青年に依つて、既に叫ばれて居つたではないか、そうして、其の國難に適應すべく、國內の政治・經濟・教育等の一切を整調せなければならぬことも、幾多の志士・處士に依つて叫ばれて居つたのである。然して、其の當時の大部分の政治家・經濟人が、この純眞・達觀・忠誠・憂國・無私・の天來の聲に耳を傾けなかつたのである。

六 打倒英國は日本民族の聖使命

過去の事は、茲に言ふことを止めん。然らば現前の日英關係が、往年の日清・日露兩戰役當時の情勢と等しからずと誰れか斷言し得るか、更に又、今後の情勢が日本建國以來の重大時局にあらずと誰れか斷言し得るか。吾人は切に、世の現状維持派の人達と、國民とが、速かに時局に對する大自覺を喚起することを希ふ所以である。

現状打破は、今や世界的共通の問題である。殊に世界の現状打破は、世界人類に與

へられたる當面の重大課題であり、日本民族に與へられたる、世界的重大使命であると確信し斷言する。

世界地圖を披らき見る迄もなく、世界の現状は極はめて不公平である。現在の世界地圖は、掠奪者の横行したる泥足の足跡である。之を清掃して、正しく置き換へねばならない。

ソ聯は、あの尨大なる領土と資源を有しながら、自からを修むることを忘れ、尙野望を逞ふして世界の赤化を計らんとして居る。宜しく退いて、自國資源の開發を爲し、文化の發展に努力し、誤れる思想を悔ひ改めて、先づ自身の政治を正しく行はなければならぬ。

アメリカは、南北アメリカにて、餘り有るではないか、宜しく、聖ワシントンのピワリタン主義に歸つて、善良なる國民の移住を阻止するが如き、不善の行爲を改むべきである。支那は四億の生民を有し、あの廣大なる土地を有しながら、未だ正しき國

家の形態さへ整はず、公益私黨に等しき、軍閥共匪の徒が横行活歩して、民を塗炭の苦しみに放置し、朝にソ聯と野合し、夕に暴英と私情を通じ、有史以來稀に見る無頼の情怠である。日本が、斯の如き國家と隣接して、之を放置して置くことは、隣家の悪疫・火災を棄て、顧みざるに等しくして、堪へ忍び得ることでは無い。

英國に至つては、世界の四分の一の領土を占有し、搾取と殺戮とを續行し、自國の本國は貴族的榮華を貪つて居る。殖民地に對する文化施設の如きは、自國の搾取に必要なる程度以上には、何等の仁愛政治を行つて居らない。濠洲の如きは其の廣大なる領土に對し、僅々數百萬の人口に止めて門戸を閉鎖して居るのである。

支那は有史以來の無頼の懶怠國であり、英國は有史以來横領搾取に努力する惡魔の國である。

然るに、一方、勤勉にして勇敢、正義にして智能の優れたる民族、即ち、大和民族・獨逸民族・伊太利亞民族等が、狹隘なる領土内に閉ぢ込められて、其の國民は満足

生活を爲し能はざる状態に置かれて居るのである。之が世界の現状である。

七 倒英と昭和維新の關係

この不公平なる世界の現状は、速かに打破せなければならぬ。然るに、この打破さるべき目標の國家と親しみを感じ、之を崇拜し、之を恐怖する者が、國內に有りとしたならば、世界の現状を打破する前に、先づ國內の現状打破を計らねばならないことになる。之が、攘夷は先づ倒幕から、の現状打破論者の主張である。

吾人は必ずしも、領土の多少に依る不公平を言ふのではない。不善なる者が多く領し、善良なる者が少なく領することの不公平を叫ぶのである。

若し、皇軍の赴く所、民は箪食壺漿して之を迎へ、皇化の治きところ、草木禽獸も喜んで靡くならば、全世界を領するとも、天人誰れか歡喜せざらんや。惡魔の如きソ

聯、犀狼の如き英國、不良なる支那の如きが、多く領することが不合理であると叫ぶのである。世に正しき者が、正しく多く持つことほど、公平なることは無いからである。

八 偽善！狡獪！英國民性の本質

凡そ英國ほど偽善的國家は無い。ソ聯は憎むべき國家ではあるが、其の主義を掲げて明らかに敵意を示して居る。英國に至りては、敵の如く、味方の如く、友人の如く他人の如く、自國の利害に依つて朝變暮改し、老獪陰險にして、少しも心を許すことが出来ない。朝に吳客を迎へ、夕に越客を送る市井の娼婦にも、尙一片の情緒が存する。英國が國際道義を顧みざる態度は、市井の娼婦にも及ばざるのみならず、其の冷酷無情なる行爲は實に言語に絶するものがある。

徳富蘇峯氏は、温健常識の碩學である。この人でさへ英國を罵つて、海賊の子孫はどこ迄も海賊の本領を發揮して居ると罵つて居る。吾々も、英國は猿が衣冠束帯した

るが如き國家であると信ずる、一度利害の柿の實が彼れの前に投ぜられる時に、彼は直ちに衣冠を抛ちて畜生の本性を現はす國である。

東京電燈の小林一三社長は、觀察犀利にして公平なる實業家である。過ぐる歳、親しく歐米を視察した感想に、世界で、英國ぐらい貴族的で、封建的の國家は無い。其の教育制度を調べて見るに、一般國民の教育程度などは、日本などに比較して非常に低い、ケンブリッジ・オックスホードのやうな大學や、其の他高級の教育は、貴族の子弟以外には、受けることができないやうに出来てをる。

そうして、その國の富の大部分は極めて小數の貴族の手に收められて居る。表面はデモクラシーなどと言つて居るが、貴族の子弟以外には、日本のやうに誰れでもが出世することの出来ないやうに仕組まれて居る封建的國家である。

それから英國人に對しては、
犬か人か、と言つて居る。

その意味は、若し英國人に對する場合に、犬のやうに尾を振つて、彼れに柔順で、

彼れの思ふやうに服従して行く場合には、英國人は親切に行届いて優遇して呉れるが若し對等に、或は優越の態度を以て臨む場合、殊に彼れと利害が對立するが如き場合は、忽ちにして冷酷無情の本性を現はして、なんとかして人を犬の如くならしめんとする國家であると言はれて居る。

若しこの觀察が事實であるならば、今頃、まだ親英派の人が日本にありとしたならば、其の人は、恐らく英國から犬の如く可愛がられた人であると言はねばならない。吾々は英國に對し、犬となつて尾を垂れるか、それとも、人となつて戦ふか、敢て國民に問はんとするところである。

九 英語教育を検討せよ

明治以來、日本國民の大多數は、英語が世界共通語であるところから、英語を學び英語に依つて歐米の文化に接觸した。其の間に英國の思想・文化の感化を受け、善惡共に之を鵜呑みにし、遂に英國崇拜の弊に陥つたのである。他國の善き文化を接受し

て、自國の文化を養ふことは、善いことであり、進んで爲すべきことである。之れなくして大國民の發達は無い。然しながら、何れの國にも善惡の両面がある、たゞ表面の美點或は偽裝に魅惑せられて、其の本質の検討を忘れてはならない。

殊に、其の國が現實に行つて居る、政治・經濟・外交等の實際政治との比較を忘失してはならないのである。

ミルトンは英國の生んだ偉大なる詩人であり、セークスピアは、英國の生んだ偉大なる文豪であるかも知れない。然し、それだからとて、英國が印度を掠奪し、クライブの敢てしたる、あの慘忍なる行爲は、斷じて許さるべきものではない。歐洲大戰に於て、印度の兵士を戦場に立たしめる爲に偽つて戦後の自治を約束し、印度兵を第一線に彈除けとして立たしめ、自國の兵よりも多數の死傷者を出ださしめながら、戦後に於ては約束の自治に對し、一顧をも與へざる英國の實際政治を、誰か正しくして人道に反せざると言ひ得るか。

ケンブリッジ・ワッタスホードの兩大學は立派な學校かも知れない。又その貴族の

一部の者には好紳士が居るかも知れない。

それだからとて、英國皇帝が議會に於て、日本を侵略國呼ばはりを爲し、カンターペリー大僧正が、排日の司會を爲したる態度を、誰が紳士的であると言ひ得るか。

其の國が、現に實際に行ひつゝある行爲、即ち政治・外交・通商等を正確に注視せずして、漫然と過去の文化や、一部の思想に眩惑せられて、之を崇拜し、或は親しみを感じ、或は之を恐れて居る者ほど、世に自からを誤り又國を誤るものはない。

軟弱外交は茲に起り、屈辱ロンドン條約も茲に起り、面上唾せられて、尙怒らざる醜態を演ずるに至るのである。

漢學全盛の徳川時代に於て、腐儒の多くがこの弊に墮した。山崎闇齋が「孔子が大將軍となり孟子が副將として日本を攻め來らば如何」との質問に對し、數百の門弟一人の答ふる者なしの醜體であつた。依つて闇齋は、孔孟を捕へて一刀兩斷にすることが、即ち孔孟の教へであることを喝破した。

碌でも無い格言を、西洋の格言なるが故に之に尊貴を感じ、同じ意見でも、英文・

英書で讀んで特に感服し、研究も實驗も完全に了してあるのに、外國の工場で製造してから、あわてゝ日本で製作する機械・化學等々、其餘弊は數ふるにいとまが無し。

支那が嘗て、孔子を出し、孟子を出し、其の偉大なる儒教の理想は、吾人の教養に資し、其の内容を豊富にした。さればとて、現實の共匪軍閥が横行し、自己の權勢利達の爲めに、其の國と民衆とを塗炭に苦しむる支那の實際政治を、誰が正しきものであると言ひ得るか。斯の如き軍閥共匪の徒を一掃するがために、速かに仁義の軍を起して、四億の民衆と、東洋の平定を計るべきことを孔孟の訓へが吾人に教へる。

英國或は歐米の紳士道なるものは、日本の武士道にも比すべき道であるかも知れない。然らば、現に英國が實行しつゝある、陰險陋劣なる外交、人道を無視する殖民政策、自己の利害を以て正邪となして、國際道義を無視するが如き暴戾なる國家英國の如きを、速かに撃滅することは、紳士道の精神が吾人に教へるところではないか。

其の國が、現實に行ひつゝある政治外交を注視することなくして、徒らに過去の文

化、一部の思想に魅惑せられて、其の國に親しみを感じ、或は恐れを爲して、自國の政治外交をこれに順應せんとする者ほど、國を過り世を過るものはない。

日本の親英派、恐英派と言はれる人達の中に、この種に屬する不心得者の存在することは甚だ遺憾に堪へないところである。然して現實の英國ほど、不徳義な、陰險な、陋劣な國家はない。さうして、既に國家としての理念を失ひ、共產主義にも似たる個人主義・唯物主義に墮した、亡國前夜の國であることを、ハッキリと認識せなければならぬ。

十 英帝國の罪惡史

英國の暴虐不逞の國家である正體は、其の殖民政策と外交とが、何によりても雄辯に之を證明して居る。

英國の殖民史は、世界人類の罪惡史であると歴史家が罵つて居る。カナダ・濠洲・印度は言ふ迄も無く、其の他尨大なる殖民地の尊き人類を犬の如くに暴壓し、搾取し

無辜を虐殺し、慘忍語るに忍びざるものがある。それで英本國は貴族的生活を爲し、紳士然としたる態度を装つて、まだ飽き足らずに世界の隅々にまで、其の權益なるものを追求して居るのである。

英國の殖民史と併行して、其の外交史も亦罪惡史そのものである。我が國に對する外交のみを見るも、いかに陰險狼の如き國家であるかが窺はれるのである。

正直者の日本人は、過去の日英同盟を以て、友誼的同盟の如くに善意にのみ解釋して居るが、英國の本心は、決してそんな友誼的のものでは無かつた。日本を利用して、露國を衰亡に導き、日本を疲弊せしめんとしたのである。

英國は陸軍を持たない。故に日露戦争を起さしめ、日本の陸軍を利用して、露國の陸軍に當らしめたのだ。

歐洲大戰に際しては、フランスの陸軍を利用して、獨逸の陸軍に當らしめた。

今回の日支事變は、支那とソ聯の陸軍を利用して、日本の陸軍に當らしめて居るのである。

日本も、ソ聯も、支那も、フランスも英國の御用陸軍として、其の番犬を勉めた事になるのである。

日露戦役以前の英露の関係は、一本の橋を両方から進んで居る車の如く、必ず衝突すると言はれたのであり又事實であつた、それを、英國の老獪なる手段は、露西亞を歐洲より極東に方向轉換を爲さしめ、日露戦争を餘義なくせしめたのであり、英國にとつては、日本が負けてもロシアが負けても自分だけは都合が好かつたのである。

屈辱的條約と言はれた、ロンドン條約は英國が新興の國家日本の海軍力を阻止しやうとした魂膽に他ならない、國際聯盟然り、今回の九ヶ國條約などに至つては餘りにも露骨なる日本イジメの會議である。九ヶ國條約に於て英國は、東洋の安定、世界の和平を説きながら、時を同ふして自國の殖民地に於ては、武器を有せざる自國人を爆撃しつゝあるのである。

斯の如き條約會議は速かに叩きつぶさなくてはならないのである。

今回の日支事變は、明らかに英國が、支那の人間と、支那の財力とを武器として日

本と戦はしめ、其の虚に乗じて東洋の利權を獲得し、日本の發展を阻止せんとしたものに他ならない。

英國の正義とは自國に利益の事であり、英國の不正とは、自國に不利益の事である。自國に利益ある間は、自由貿易を以て眞理なりとし、自國の不利益の場合には、極端なる關稅政策を取つて、之を眞理とし、安價にして優秀なる日本品をボイコットし、粗惡にして高價なる品を自國の殖民地の人民に強賣して居るのである。

十一 英勢力の驅逐

不必要なる尨大殖民地を擁して之を搾取し、自國の本國だけは貴族的榮華をむさぼり、勤勉、優秀なる他國民の發展を極力阻害し、之を維持することが、英國の謂ふ所の世界の平和であり、之を守らんとする手段が、國際聯盟であり、ロンドン條約であり、九ヶ國條約である。世にこのぐらい馬鹿けたる平和と正義とは無い。

道義精神を、自國內と、自國の利益となる場合にのみ利用し、之を國際間と、人類の上に及ぼすことを知らざる、英國の如き國家と國民とは實に禍ひなるかな。之れ暗黒時代の野望國家の遺物でなくて何んであらう。

正義と道義とを國家の基本と爲し、之を世界に宣べ、之に依つて人類を光被せんとする、理想を有する日本國家から見ると、英國の如きは、明らかに海賊の遺風を繼承する國家であると言ふべきである。

十二 奮起せよ！ 日英開戦の絶好機

英國！ 世界はいま、道義世界の建設に向つて、其の一步を進めんとして居る。日本はこの重大使命を負ふて、其の聖戰の爲に、金毛の獅子の如くに躍り出でんとして居るのである。

英國！ 過去數百年に亘り、幾百億の人類を苦しめたる汝の罪障を顧み、靜かに海賊の本國に歸つて、裁きの日を待つべきではないか。

日本國民！ 人は怒るべき時に怒らざればそれは愚か者である。國民として、自分の祖國が重大なる侮辱を受け、重大なる危害を加へられながら、それで怒ることを知らざる國民は亡國の民である。

過去數十年間、日本は、英國より劣等民族として取扱はれ、番犬の如くに利用された。

英國の皇帝は、其の國の議會に於て、日本を侵略國の如くに宣言した。

英國の風教を司る最高位者、カンターベリー大僧正は、一新聞社の排日・抗日の宣傳大會の司會を爲した。

更に又、上海戦線に於ては、支那に物資と彈丸と武器とを供給し、日本軍の軍事行動を妨害し、甚しきは、支那軍の作戰に参加して、これが爲に、吾等の兄弟・親族・知己・友人・即ち忠勇なる吾等の軍人を、必要以上に戦死戦傷せしめて居る

これをしも怒らずして、吾々は何を怒るか、一億の日本國民は、一人も漏らさず怒り心頭より發して居ることを確信する。

更に、日本國民！ 起つべき秋に起ち、天の與ふるを取らざれば、却て禍ひを受けん。

英國は陸軍を持たない、今有る陸軍の如きは觀兵式用以上の陸軍でしかない。英國の海軍は形容の海軍である。其の強大を誇りたるは過去の夢物語りに屬する。伊國の飛行機に、ふるふ上がりたる彼の地中海艦隊、其の東洋艦隊の如きは、日本海軍の前には海神一觸であることは、軍事専門家の確信するところである。

この天與の機會に起つて、暴英を撃滅し、之を第三等國に墮せしめ、世界地圖を塗り換へることは、現時代の日本人に與へられたる、天業翼賛の一大聖業でなくてはならぬであらうか。

終

★全國有名書店・驛書店・新聞スタンドにあり。賣切れの節は直接本社へ。

この書を手にした方へ！

昨日の味方は今日の敵、今日の敵は明日の味方、これが老獪英國の傳統的外交手段である。今次の日支事變に際し、上海に香港に、將又國際宣傳にその魔手を伸して我が日本帝國の聖戰を妨げてゐる。今や支那は英國のあやつり人形としてその影を留めるのみとなつた。此の際、田邊氏の本稿こそ眞に我が國民の輿論を代表したものと信ずる。

「英はもう戦つて居る」

定價十錢 送料三錢

昭和十二年十二月九日印刷納本
昭和十二年十二月十二日發行

著者 田邊 宗英

東京市杉並區阿佐ヶ谷四ノ九二
發行者 吉田謙太郎

東京市牛込區矢來町三六
印刷所 清揚社

東京市杉並區阿佐ヶ谷四の九一一
發行所 日本書房

振替東京一五二、一一一番
出張所・京橋二の七(中川ビル五階)
電話京橋(56)八〇八八番

★特約・東鐵公認・鐵道保養會・鐵道弘濟會・啓徳社・大阪新正堂(京・阪・神)

最新既刊パンフレット

順	著者	書名	定價	送料
1	雀部治人著	双葉山 <small>涙心の</small> 出世哲學	十錢	三錢
2	鈴木與一著	<small>社大黨・政友・民政の</small> 政治資金解剖	十錢	三錢
3	<small>陸軍大臣</small> 杉山 元述	北支事變に際し國民に告ぐ	五錢	三錢
4	片桐勝昌著	日支全面衝突と列強の動向	十錢	三錢
5	<small>對外問題研究會</small> 松尾友太著	日本はいつソ聯を撃つべきか	十錢	三錢
6	人生問題研究會編	人生は四十から先づ若返へれ	十錢	三錢
7	吉田謙太郎著	世渡りに勝つ人と負ける人	十錢	三錢
8	片桐勝昌編	時局新語早わかり	十錢	三錢
9	田邊宗英著	日英はもう戦つてゐる	十錢	三錢

發行所

東京市杉並區
阿佐ヶ谷四ノ九一一

日本書房

振替 東京
一五三、一一番

9
5